フルオレセイン標識ペプチドグリカン試液、0.5mg／mL Micrococcus lysodeikticus由来のペプチドグリカンを以下の操作により蛍光物質であるフルオレセインイソチオシアナート（アイソマーⅠ）で標識したもの。

ペプチドグリカン100mg（99.5～100.4mg）を量り、炭酸水素ナトリウム緩衝液（pH9.3）35mLを加え、よく振り混ぜて懸濁液とする。この懸濁液をフルオレセインイソチオシアナート（アイソマーⅠ）800mg（799.5～800.4mg）に加え、更に懸濁液の入っていた容器を炭酸水素ナトリウム緩衝液（pH9.3）10mLで洗浄した後、フルオレセインイソチオシアナート（アイソマーⅠ）に加える。毎分700回転、37℃で４時間振り混ぜた後、1,500×ｇで20分間遠心分離し、上澄液を捨てる。次に、この残留物に炭酸水素ナトリウム緩衝液（pH9.3）35mLを加えてよく振り混ぜた後、1,500×ｇで20分間遠心分離し、上澄液を捨てる。この操作を更に１回繰り返す。次に、この残留物に水35mLを加えてよく振り混ぜた後、1,500×ｇで20分間遠心分離し、上澄液を捨てる。この操作を更に１回繰り返す。次に、この残留物にアセトン35mLを加えてよく振り混ぜた後、1,500×ｇで20分間遠心分離し、上澄液を捨てる。この操作を更に１回繰り返す。さらに、この残留物にエタノール35mLを加えてよく振り混ぜた後、1,500×ｇで20分間遠心分離し、上澄液を捨てる。この操作を更に１回繰り返した後、凍結乾燥し、－20℃で保存する。

ブルーテトラゾリウム～ペクチン　（略）

ペプチドグリカン　細菌などの細胞壁に存在する多糖類である。ただし、Micrococcus lysodeikticus由来のものを用いる。

ペプトン、カゼイン製～リン酸　（略）

リン酸一水素ナトリウム・二水和物　$Na_2HPO_4 \cdot 2H_2O$

リン酸塩緩衝液、pH2.0～レゾルシン　（略）

⑶～⑼　（略）

8　各飼料添加物の成分規格及び製造の方法等の基準

⑴～(139)　（略）

(140)　ムラミダーゼ

ア　製造用原体

㋐　成分規格

酵素力単位　本品は、酵素力試験を行うとき、１ｇ中に30,000ペプチドグリカン分解力単位以上を含む。

物理的・化学的性質

①　本品は、淡褐色～濃褐色の液体である。

②　本品の水溶液又は水懸濁液（１→100）のpHは、3.0～5.0である。

③　本品は、pH4.0～7.5において最大の酵素活性を有する。

純度試験

①　鉛　本品0.5ｇ（0.45～0.54ｇ）を量り、鉛試験法（原子吸光光度法第１法）により鉛の試験を行うとき、その量は、20μg／ｇ以下でなければならない。

②　ヒ素　本品1.0ｇ（0.95～1.04ｇ）を量り、ヒ素試験法第３法により試料溶液を調製し、装置Ａを用いる方法によりヒ素の試験を行うとき、吸収液の色は、標準色より濃くてはならない（２μg／ｇ以下）。

（新設）

ブルーテトラゾリウム～ペクチン　（略）

（新設）

ペプトン、カゼイン製～リン酸　（略）

（新設）

リン酸塩緩衝液、pH2.0～レゾルシン　（略）

⑶～⑼　（略）

8　各飼料添加物の成分規格及び製造の方法等の基準

⑴～(139)　（略）

（新設）